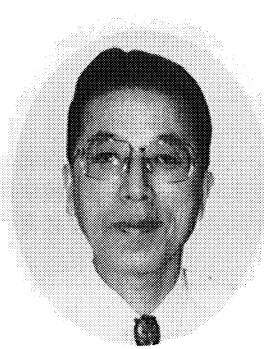


提 言



宝さがしとアラさがし

社会福祉法人いわき福音協会
福島整肢療護園長

湊 治 郎

養護学級を初めて受け持たれた先生方の集まりで次のようにお話をいたしました。

私たちには幼い頃から他人のアラ（粗）を探すのが上手になるように教育されてきたように思います。これは競争を原則とする社会では、相手の弱点を突くことが勝利への道と信じられているからでしょう。

そのため、初めて障害児に出会った先生方は、子供たちの持つ障害つまりアラだけを見てしまいがちです。あれも出来ない、これもわからない、何をやらせてものろまだというハニセン病の研究をする。国立療養所東北新生園、その後、沖縄愛楽園でハンセン病患者の医療（整形外科、リハビリテーション医学）に従事して、筋ジストロフィー症、重症心身障害児の医療に携わる。国立療養所西多賀病院に迎えられ、主として、筋ジストロフィー症、重症心身障害児の医療に携わる。

大正十五年 東京に生まれる
昭和二十四年 東北大医学部を卒業
昭和二十六年 医師となり、東北大医学部抗酸菌病研究所で
ハニセン病の研究をする
二十八年 国立療養所東北新生園、その後、沖縄愛樂園でハンセン病患者の医療（整形外科、リハビリテーション医学）に従事して、筋ジストロフィー症、重症心身障害児の医療に携わる。
四十四年 国立療養所西多賀病院に迎えられ、主として、筋ジストロフィー症、重症心身障害児の医療に携わる。
五十五年 脳体不自由児施設福島整肢療護園（いわき市平上平窪）園長に就任、現在に至る

私も二十年程前に、初めて重い障害児の医療に携わった時に同じような経験をしました。いろいろと参考書を読みあさって、新しい医術を試みれば試みる程、障害が改善されないばかりではなく、子供たちの表情が暗くなるのに気がつき